

休眠預金活用事業 事業計画書

基本情報

事業名	【変更】秋田ノーザンハビネッツ子ども食堂“みんなのテーブル”の運営
実行団体	秋田ノーザンハビネッツ株式会社
事業の種類	③ソーシャルビジネス形成支援事業

バージョン	1
-------	---

事業名	スポーツクラブによる困窮世帯支援事業
資金分配団体	一般社団法人RCF

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
1) 子ども及び若者の支援に係る活動	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援 ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	⑥地域の働く場づくりや地域活性化などの課題解決に向けた取組の支援 ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

I. 団体の社会的役割

(1) 団体の目的
「秋田ノーザンハビネッツ県民球団宣言」 プロバスケットボールクラブを通じて県民が『元氣』『夢』『希望』『誇り』を実感できる風土づくりに寄与することを設立目的としています。
(2) 団体の概要・活動・業務
プロスポーツチームの運営、プロスポーツ選手のマネジメント、スポーツイベントの企画・運営・主催など

II. 事業概要

実施時期	2021年7月～2022年2月	直接的対象グループ	秋田市内の困窮家庭の高校生以下の子どもたちとその保護者	間接的対象グループ	・困窮家庭以外の親子 ・大学生以上の地域住民（大人たち）
対象地域	秋田市	人数	累積100名程度	人数	累積400名以上
事業の概要	【変更】新型コロナウイルスの影響により、多くの秋田県民の生活に影響が及んでいる。特にひとり親家庭の保護者は飲食店で勤務していることも多く、勤め先の時短営業や閉店によって収入が減り、生活状況が悪化しているケースが行政・社会福祉協議会に数多く報告されている。こうした社会状況を踏まえ、秋田ノーザンハビネッツでは早急な打ち手である単発の子ども食堂を実施しつつ、継続性の観点から、秋田県内初となる常設での子ども食堂“みんなのテーブル”を新設し、運営する。“みんなのテーブル”では、困窮家庭の子どもたちにアプローチすることを大切にしつつも、線引きはせず、所得水準・年齢・性別関係なく誰もが訪れられる、明るく楽しい食堂を目指す。そこにプロバスケットボール選手も食事にくる。このように地域の多様な人々が関わることで、地域住民全員にとって大切なコミュニティへと育てていく。				

III. 事業の背景・課題

(1) 社会課題
①新型コロナウイルスによる社会的影響： 社会福祉協議会や行政によると、飲食店をはじめとする業種の時短営業や閉店の影響を受けている従業員が多く報告されているとのこと。
(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況
NPOは上記の通りリソース不足だが、それは行政や社会福祉協議会も同様である。秋田県庁と社会福祉協議会へヒアリングしたところ、対応しなければならない事案の多さと人的リソース不足から、活動の幅が狭まっているのが実情とのこと。実際、困窮家庭へアプローチする具体的な活動はほぼおこなえていない。
(3) 休眠預金等交付金に係る資金の活用により本事業を実施する意義
【変更】行政・社会福祉協議会・NPOなどからヒアリングをした結果、彼らができないこととして、実際に常設の子ども食堂を運営すること、幅広い対象に情報をリーチさせること、そしてエンタメとして楽しい場をつくること（子ども食堂に対するネガティブイメージを払拭すること）などが挙げられる。これらは私たちが実施しようとしている「秋田ノーザンハビネッツ子ども食堂“みんなのテーブル”」にて、実現可能である。また、持続可能な子ども食堂のモデルを築くという観点からも、秋田県内における知名度と実績から食材の収集並びに資金の獲得が見込める秋田ノーザンハビネッツだからこそ、できる取り組みだと考えている。

IV.事業設計

中長期アウトカム
<p><中期アウトカム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田市内において、子ども食堂に行くことに対してポジティブなイメージを持っている社会。 ・秋田市内において、困窮家庭を地域社会で支え、子育てが孤立していない社会。 ・秋田市内において、子どもだけでなく多世代の人々が集うコミュニティが醸成されている地域社会。 ・秋田県内において、子ども食堂の認知度が向上している状態。 ・秋田県内における、その他の子ども食堂や行政などとの連携によるネットワークが確立された社会。 ・寄付だけを収益源としない、持続可能な子ども食堂のモデルの確立。 <p><長期アウトカム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田市内において、子どもたちが子ども食堂で食事をすることが文化になっている社会。 ・秋田県内において、秋田市外でも、常設の子ども食堂の店舗が広がっている社会。 ・秋田県内において、常設の子ども食堂の店舗を利用した子どもたちが大人になって活躍している社会。

短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
【変更】1. 秋田市内において、困窮家庭の子どもとその保護者が子ども食堂「みんなのテーブル」で食事ができている状態。	【変更】困窮家庭へ配る無料チケットが子ども食堂「みんなのテーブル」で使われた枚数の測定。	現状：0枚（配布前）	延べ100枚以上	2021年2月末
【変更】2. 秋田県内において、子ども食堂やみんなのテーブルの認知度が向上している状態。	【変更】①各種メディアを用い、子ども食堂やみんなのテーブルに関する情報発信でリーチした累積人数。 ②みんなのテーブル利用者の累積人数。	現状： ①0人（情報発信前） ②0人（事業実施前）	①延べ1,000,000人以上 ②延べ500人以上	2022年2月末
【変更】3. 秋田市内において、プレイベントと子ども食堂「みんなのテーブル」の訪問者のうち、子ども食堂だけでは解決できない課題を抱えている家庭が存在した場合に、その家庭をサポートすることができるネットワークと連携ができおり、クラブが紹介可能な状態。	課題を抱えている家庭が気軽に専門機関（その課題に長年向き合ってきたNPO・社会福祉協議会・行政など）に相談ができるよう、クラブが窓口となっているか否か。	現在：クラブが窓口にはなっていない。ネットワークは存在しているが可視化されていない状態。	【変更】 ・LINEや電話などを通して、課題ごとに専門機関に相談ができる状態。 ・子ども食堂「みんなのテーブル」の従業員・ボランティアが、課題を抱えている子ども・家庭へサポートをする上で、共通の認識を持っており、かつ、チェック項目を用いて子どもの状態を把握できている状態。	2022年2月末
【変更】4. 子ども食堂「みんなのテーブル」へ参加した子どもとその保護者が、他の社会的な場にアクセスが可能な状態。	【変更】子ども食堂「みんなのテーブル」から、社会的な場である秋田県児童会館や秋田ノーザンハビネッツの試合会場へアクセスできる状態にあるかどうか。	現在：機会提供が現在なされていない状態。	【変更】子ども食堂「みんなのテーブル」を訪問した子ども・家庭のうち、一部希望者が秋田県児童会館や秋田ノーザンハビネッツの試合会場へアクセスできている状態。	2022年2月末
5. 常設の子ども食堂について、持続的な運営ができるよう、オペレーション方法に見込みがたっている状態。	資金面・人材面・食材面のそれぞれから見て、持続可能な運営が見込めるかどうか。	現在：それぞれの面において仮説をもとに準備中。	それぞれの面から見て問題なく、持続的な運営が見込めている状態。	2022年2月末

アウトプット	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
【変更】1-1. 子ども食堂「みんなのテーブル」で大人も無料で食事ができる「無料チケット」をともに配布してくれるNPOと連携。	連携しているNPOの数 ※ここでの連携とは月に一度そのNPOに所属する誰かがボランティアに入ってください、かつ定期的に行われる子ども食堂の改善を目指した議論の場に、足を運んでくださる関係性を指す。	0社	3社以上	2022年2月末
【変更】1-2. 1-1で連携しているNPOから、子ども食堂「みんなのテーブル」の「無料チケット」の配布。	無料チケットの配布家庭と配布枚数	配布家庭数：0人（配布前） 配布枚数：0枚（配布前）	延べ配布家庭数：30家庭以上 延べ配布枚数：300枚以上	2022年2月末
1-3. プレイベントの実施をNPO・行政・社協からの告知活動により知り、参加した人数。このルートからの参加者は困窮家庭の可能性が比較的高いため。	予約人数の測定	0人（プレイベント実施前）	延べ人数：30人以上	2022年10月
【変更】2-1. 秋田地方マスメディアからの、子ども食堂「みんなのテーブル」に対する取材。	取材回数	0回（事業実施前）	2回以上	2022年2月末
【変更】2-2. 子ども食堂「みんなのテーブル」公式SNSでの子ども食堂やみんなのテーブルに関する発信。	SNSでの投稿回数	0回（事業実施前）	15回以上	2022年2月末
2-3. 秋田ノーザンハビネッツのBリーグ試合運営時や地域コミュニティ活動時にチラシを配布。	配布枚数	0枚（事業実施前）	延べ5,000枚以上	2022年2月末
3-1 専門機関として課題を抱えている家庭のサポートを行うことが可能なNPOの数	連携NPOの数を測定。	0社	3社以上	2021年10月

3-2 課題を抱えた子どもや家庭が行政や社会福祉協議会などによるサポートを受けられるような体制の構築。	秋田市役所・秋田県庁・秋田市社会福祉協議会・秋田県社会福祉協議会との連携状態の有無。	・秋田市役所：無し ・秋田県庁：情報交換をしている状態。 ・秋田市社会福祉協議会：無し ・秋田県社会福祉協議会：秋田県社会福祉協議会主導の「秋田県内子ども食堂ネットワーク協議会」にクラブが入ることについて承諾済み。	【変更】 ・秋田市役所：子ども未来センターへのチラシ設置。子ども未来センターのチラシを常設の子ども食堂へ設置。また課題を抱えた家庭が子ども食堂に訪問した場合に、ワンストップの窓口として子ども未来センターを紹介する。 ・秋田県庁：情報交換を続ける。 ・秋田市社会福祉協議会：困窮家庭がきた場合に、子ども食堂「みんなのテーブル」へ案内いただく。 ・秋田県社会福祉協議会：秋田県社会福祉協議会主導の「秋田県内子ども食堂ネットワーク」に参加。	2022年2月末
【変更】3-3 子ども食堂「みんなのテーブル」の従業員・ボランティアが、課題を抱えた子ども・家庭が来場した場合、対応できるだけの知識を身につけている。	①従業員・ボランティア用のマニュアルの有無 ②勤務前の研修の有無	①無し（事業実施前） ②無し（事業実施前）	①マニュアルを作成し、従業員・ボランティアがそれを理解している状態をつくる。	2022年2月末
4-1 子ども食堂への参加者のうち希望者に対してチケットの配布。	チケットの配布枚数	・子ども0枚（事業実施前） ・大人0枚（事業実施前）	・子ども延べ200枚 ・大人延べ100枚	2022年2月末
【変更】4-2 子ども食堂「みんなのテーブル」に秋田県児童館のチラシの設置。	チラシの設置有無	設置なし（事業実施前）	設置あり	2022年2月末
5-1 持続的な運営に必要な資金が獲得できる見込みがたつ。	①子ども食堂の店舗売り上げ目標に見込みがたっているかどうか。 ②スポンサー収入などで、①の不足分を補えているかどうか。候補企業との交渉回数を測定。	①仮設ベースでの見込みとなっている（事業実施前） ②候補企業への交渉回数はゼロ（事業開始前）	①店舗売り上げ目標に見込みがたっている。 ②候補企業への交渉回数5回以上。また、不足分をおぎなっている状態。	2022年2月末
5-2 一次産業者から食材の寄付が可能になっている。	必要な時に、必要な量を集めることができるかどうか。	できていない。（事業実施前）	農家を中心に米などを必要分量集められている。 農家から寄付での収集が難しい場合は、農林水産省の政府備蓄米交付制度などを活用することで、代替ができてきている状態。	2022年2月末
5-3 持続的な運営のために、必要な人的リソースを確保できている状態。	①従業員については、管理栄養士（兼調理責任者）と調理担当者の確保ができているか否か。 ②ボランティアに関しては、大学（サークル・ゼミなど）・短大・NPOなどを通して、定常的に必要な人数を受け入れ可能な状態を作れているか否か。	①管理栄養士（兼調理責任者）は雇用可能な状態 ②NPOからのみボランティア参加者がいる状態	①管理栄養士（兼調理責任者）と調理担当者ともに雇用ができてきている状態 ②NPO・短大・大学（サークル・ゼミ）などから必要な人数のボランティアが定常的に参加している状態	2022年2月末

アウトプット[No.1]に対する活動

活動内容	活動時期
NPOを調査し、訪問し、連携を依頼する。調査方法は行政や社会福祉協議会からのヒアリングを通しておこなう。また、2021年6月から活動が始まった秋田県子ども食堂ネットワーク協議会（仮名）に所属されているNPOの一部にも声をかけていく。	2021年7月～随時

アウトプット[No.2]に対する活動

活動内容	活動時期
無料チケットのデザインとその印刷を8月ごろ実施。そして9月以降にそのチケットを連携するNPOに届け、NPOから困窮家庭へ配布いただく。チケットの配布状況や利用状況は、NPOと連携することで把握に努め、必要に応じて増刷し、追加配布を行う。	2021年8月～随時

アウトプット[No.3]に対する活動

活動内容	活動時期
プレイベントを7月・8月・9月それぞれ月1回開催する。そのプレイベントの告知活動をNPO・行政・社協にチラシ（プレイベント用）をお渡しし、ご協力いただく。	2021年7月～9月

アウトプット[No.4]に対する活動

活動内容	活動時期
すでに繋がりのある地方マスメディアに連絡し、取材を受ける。取材を受けるタイミングとして、プレイベントの開催時期となる2021年9月ごろと常設の子ども食堂の開店時である10月はじめをまずは想定している。	2021年9月、10月、以降必要に応じて随時

アウトプット[No.5]に対する活動

活動内容	活動時期
【変更】秋田ノーザンハピネッツ子ども食堂「みんなのテーブル」の公式SNSを新設。そのアカウントを活用し、発信を行う。発信を行うタイミングとしては、9月のプレイベント時や常設の子ども食堂開店時（10月ごろ）をまずは想定している。そして常設の子ども食堂の運営が始まっている10月以降も、子ども食堂の認知度向上のために月に2回程度以上の定期的な発信を行う。また、みんなのテーブルの公式SNSでの投稿を、秋田ノーザンハピネッツの公式SNSでのシェアやリツイートを通して、拡散を図る。	2021年9月～

アウトプット[No.6]に対する活動

活動内容	活動時期
チラシのデザインを9月までに決定し、必要枚数を印刷。それらを連携するNPOや、県の教育委員会、地域の学校を通じて配布する。そして、Bリーグの試合時にはアリーナでもチラシを配布することで、認知度の向上やイメージの刷新を図る。また、駅をはじめとする公共施設にも掲示板にチラシを貼っていただくよう依頼する。	2021年9月～

アウトプット[No.7]に対する活動

活動内容	活動時期
なかなか子ども食堂だけでは解決することができない課題を抱えた家庭からの相談・サポートを受けてくださるNPOと交渉する。	2021年7月～2022年2月

アウトプット[No.8]に対する活動

活動内容	活動時期
課題を抱えた子どもや家庭が相談に行き、必要なサポートを受けられるような体制を、行政や社会福祉協議会と構築する。具体的には、秋田県庁・秋田市役所・秋田県社会福祉協議会・秋田市社会福祉協議会と連携する。	2021年7月～2022年2月

アウトプット[No.9]に対する活動

活動内容	活動時期
【変更】子ども食堂「みんなのテーブル」の従業員・ボランティアが、課題を抱えた子ども・家庭が来場した場合、対応できるだけの知識を身につけるために、マニュアルを作成し、研修をおこなう。	2021年10月～2022年2月

アウトプット[No.10]に対する活動

活動内容	活動時期
子ども食堂への参加者のうち、秋田ノーザンハビネッツの試合開戦を希望する親子に対してチケットを提供。	2021年10月～2022年2月

アウトプット[No.11]に対する活動

活動内容	活動時期
連携していくNPOである、あきた子どもネットさんが運営している、秋田県児童会館のチラシを設置する。	2021年10月～2022年2月

アウトプット[No.12]に対する活動

活動内容	活動時期
持続的な運営に必要な資金を獲得できるスキームを確立するために、費用を把握し、必要な収入を把握する。それをもとに社内の営業部と連携しながらスポンサーを獲得していく。	2021年9月～2022年2月

アウトプット[No.13]に対する活動

活動内容	活動時期
一次産業者から食材の寄付の仕組みを確立する。毎月の営業日ごとに管理栄養士に献立を立案いただき、その食材の一部を寄付で集めていくことで持続的な運営に貢献する。また金銭的なリターン、つまり食材に対して支払いはしないものの、物的または体験型のリターンを提供する予定。具体的には試合会場への招待などを想定している。	2021年9月～2022年2月

アウトプット[No.14]に対する活動

活動内容	活動時期
持続的な運営のために、必要な人的リソースが確保できる仕組みを確立する。具体的には地域の大学、短大、NPOと連携し、定期的にボランティアが参加する仕組みをつくる。	2021年9月～2022年2月

V.インプット

人材	資機材
【変更】<内部>事業責任者1名、子ども食堂担当者1名、広報担当者1名、営業担当者1名 <外部>プロジェクトマネージャー1名、管理栄養士1名、調理担当者数名、ボランティア数名	とくになし

VI.持続可能性

持続可能性1	<多角的な収益源を確保> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度から「SDGs達成に向けたスポンサー」の項目を新設。スポンサー収入を確保。子ども食堂の運営費をここから捻出する。 ・2021年度からファンクラブの仕組みを刷新し、サブスクリプション型を新設。会費の一部を子ども食堂の運営費に充てる。 ・子ども食堂を訪問する大人からの食事代。 ・お惣菜の販売による収益確保も検討している。
持続可能性2	<地域社会との連携で食材の調達コストを削減> <ul style="list-style-type: none"> ・農家と連携し食品を集める。 ・スポンサー企業からの食品の寄付。 ・地域のNPOや大学生、短大生にボランティアをしていただく。

VII.広報戦略および連携・対話戦略

<p>広報戦略</p>	<p>【変更】</p> <p><メディアを用いた広報戦略></p> <p>①地域マスメディアとの強固な繋がりによる情報発信： →地域新聞社、各地域テレビ局、情報誌などと連携し、情報発信をする。</p> <p>②自社メディア（SNS）による情報発信： →新設する「みんなのテーブル」の公式SNSだけでなく、クラブ公式Twitter、公式Facebookを活用し、情報発信をする。</p> <p><自社のその他活動での広報戦略></p> <p>③自社の学校訪問事業： →地域の小学校を訪問時にチラシの配布をする。</p> <p>④地域コミュニティ活動： →試合時だけでなく、地域でのコミュニティで広報活動を行う。</p>
<p>連携・対話戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県庁 健康福祉部 地域・家庭福祉課 ・秋田県社会福祉協議会 ・秋田市社会福祉協議会 ・特定非営利活動法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ ・秋田県内のNPO：特定非営利活動法人 秋田たすけあいネットあゆむ、特定非営利活動法人あきた子どもネットなど

以 上